

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論 I (日商PC検定 文書作成3級)	
担当教員の実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められるビジネス文書の作成能力、およびネットワークの活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 文書作成3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 文書作成3級 (Word2013対応)」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	1. 検定試験概要・必要データのダウンロード	1 コマ
	2. 文書の有用性・ビジネス文書の基本	1 コマ
	3. ビジネス文書の文章表現・誤解を招かない文章表現	1 コマ
	4. 文章表現の応用 (箇条書き、記号符号、表)	1 コマ
	5. 電子メールの基本と文書管理の基本	1 コマ
	6. [演習]文章の入力 (インデントの設定、タブの挿入、下線の設定、名前を付けて保存)	1 コマ
	7. [演習]表のあるビジネス文書 (列幅の変更、行・列の挿入、罫線の削除、セルの塗りつぶし)	1 コマ
	8. [演習]票のあるビジネス文書 (罫線の種類の変更、計算式の入力)	1 コマ
	9. [演習]図形のあるビジネス文書 (各丸四角形の作成、矢印の作成、テキストボックスの作成)	1 コマ
	10. [演習]第1回模擬問題	2 コマ
	11. [演習]第2回模擬問題	2 コマ
	12. [演習]第3回模擬問題	2 コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	日本語表現	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	IT技術の進歩に伴い、パソコン等の利用による記録物管理等が行われるものの、基礎的基本的な表現技法等を行うことを基に、日本語表現を体系的に理解する。	
授業の到達目標	介護職員の業務に必要な書式等にあわせ「書く・話す・伝える」基礎的知識を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	石塚修他著「日本語表現&コミュニケーション」実教出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 自己紹介（構造）		1コマ
2. 敬語・連絡メモ		1コマ
3. 介護保険制度で行われる記録物		1コマ
4. 漢字の用例、言い回し例		1コマ
5. 書いた文章の見直し、改まった表現		1コマ
6. 手紙文の基礎、メールでの留意点		1コマ
7. 説明の構造		1コマ
8. 資料の読み取り（表、図、グラフの情報）		1コマ
9. わかりやすく伝える		1コマ
10. 介護報酬請求の流れ		1コマ
12. レポートの書き方		1コマ
13. 履歴書の構造		1コマ
14. 社会福祉で使われる文章表現		1コマ
15. まとめ		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	人間の理解（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観がわかる。また、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 人間の理解（人間の多面的理解）	1コマ
	2. 人間の尊厳と個人の尊厳	1コマ
	3. 人権尊重	1コマ
	4. 自立の概念	1コマ
	5. 自立と権利擁護	1コマ
	6. 権利擁護の歴史的経緯	1コマ
	7. 権利侵害の現状と背景	1コマ
	8. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（諸規定）	1コマ
	9. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（制度政策）	1コマ
	10. 介護における尊厳の保持（職業倫理）	1コマ
	11. 対象者を理解する視座	1コマ
	12. 介護実践におけるチームマネジメントの意義	1コマ
	13. ケアを展開するためのチームマネジメント	1コマ
	14. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	1コマ
	15. 組織の目標達成のためのチームマネジメント	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会の理解Ⅰ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 社会と生活のしくみ	1コマ
	2. 社会・組織の機能と役割	1コマ
	3. 地域・地域社会	1コマ
	4. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策	1コマ
	5. 地域共生社会と地域包括ケア	1コマ
	6. 社会保障の基本的な考え方	1コマ
	7. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ
	8. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ
	9. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ
	10. 日本の社会保障制度のしくみ（年金保険）	1コマ
	11. 高齢者保健福祉の概要	1コマ
	12. 介護保険制度①	1コマ
	13. 介護保険制度②	1コマ
	14. 介護保険制度③	1コマ
	15. 介護保険制度④	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	社会の理解Ⅱ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「人間の尊厳と自立」「社会の理解Ⅰ」「社会の理解Ⅱ」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 障害の概念・我が国における障害者の法的定義と障害者の概数	1コマ	
2. 障害者保健福祉の動向	1コマ	
3. 障害者保健福祉に関連する法体系	1コマ	
4. 障害者総合支援制度①	1コマ	
5. 障害者総合支援制度②	1コマ	
6. 障害者総合支援制度③	1コマ	
7. 個人の権利を守る制度・施策①	1コマ	
8. 個人の権利を守る制度・施策②	1コマ	
9. 個人の権利を守る制度・施策③	1コマ	
10. 保健医療に関する制度・施策①	1コマ	
11. 保健医療に関する制度・施策②	1コマ	
12. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①	1コマ	
13. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②	1コマ	
14. 地域生活を支援する制度・施策①	1コマ	
15. 地域生活を支援する制度・施策②	1コマ	
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護の基本Ⅰ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護福祉とは	①介護の成り立ち	1コマ
2.	〃	1コマ
3. 介護福祉とは	②介護の概念の変遷	1コマ
4.	〃	1コマ
5. 介護福祉とは	③介護福祉の基本理念	1コマ
6. 介護福祉士の役割と機能	①介護福祉士の活動の場と役割	1コマ
7. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷		1コマ
8. 介護福祉士を支える団体		1コマ
9. 介護福祉士の倫理		1コマ
10. 日本介護福祉士会の倫理綱領		1コマ
11. 自立に向けた介護福祉のあり方	①自立支援の考え方	1コマ
12.	〃 ②ICFの考え方	1コマ
13.	〃 ③自立支援とリハビリテーション	1コマ
14.	〃 ③自立支援と介護予防	1コマ
15. まとめ		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ（介護職員資格講座）	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科1年	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケアの基本的知識を深める。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。	
使用教科書・教材・参考書	最新 介護福祉士養成講座テキスト 第5巻「コミュニケーション技術」	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護におけるコミュニケーションとコミュニケーションの対象		1
2. 援助関係とコミュニケーション		1
3. コミュニケーションの基本技術 ①コミュニケーション態度に関する基本技術		1
4. コミュニケーションの基本技術 ②目的別のコミュニケーション技術		1
5. コミュニケーションの基本技術 ③集団におけるコミュニケーション技術		1
6. コミュニケーション障害への対応の基本		1
7. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援		1
8. 家族とのコミュニケーション		1
9. 家族関係と介護ストレスへの対応		1
10. 介護におけるチームのコミュニケーション		1
11. 報告・連絡・相談の技術		1
12. 記録の技術		1
13. 会議・議事進行・説明の技術		1
14. 事例検討に関する技術		1
15. 情報の活用と管理のための技術		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護過程Ⅰ（介護職員資格講座）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護過程の展開の意義・目的を理解し、そのプロセスについて理解できる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 介護過程とは	2コマ
	2. 生活支援における介護過程の必要性	1コマ
	3. 介護過程の理解（全体像）	1コマ
	4. アセスメント（情報収集）	2コマ
	5. アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	1コマ
	6. 介護計画の立案	1コマ
	7. 介護の実施	1コマ
	8. 評価	1コマ
	9. 介護過程と家アマネジメントの関係性	1コマ
	10. チームアプローチにおける介護福祉士の役割	1コマ
	11. 介護過程の展開事例を用いたアセスメントの理解	2コマ
	12. まとめ	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護過程Ⅱ（介護職員資格講座）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 / 360 コマ ・ 2 / 24 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を習得する。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 介護過程の実践的展開①	3コマ
	2. 介護過程の実践的展開②	3コマ
	3. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例①	4コマ
	4. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例②	4コマ
	5. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例③	4コマ
	6. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例④	4コマ
	7. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例⑤	4コマ
	8. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例⑥	4コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	こころとからだのしくみ（医学基礎）（介護職員資格講座）		
担当教員の実務経験	看護師		
対象学生	社会福祉学科1年、心理福祉学科1年、総合福祉学科1年		
授業時間数・単位数	60 / 360 コマ	・ 4 / 24 単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []		
授業の概要	<p>心理学の諸理論に基づき、こころの側面を理解する為に根拠となる知識を習得する。また、こころの側面から対象者の状態を学び、その状態がどのような要因が起因しているのかを理解する。</p> <p>「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し生体の構造・機能について知識を深め、人間を理解する。</p>		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の知覚、学習・記憶、欲求、動機づけ、感情、パーソナリティ、知能、思考、発達、集団など心理学の基礎的事柄を説明できる。 ・ 生体の構造・機能について知識を深める。 		
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%		
準備学習・時間外学習			
使用教科書・教材・参考書	最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ / 中央法規出版		
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。		
授業計画（内容）		コマ数	
1.	こころとからだのしくみを学ぶ意義	科目オリエンテーション	1
2.	健康について	健康の定義・健康と介護福祉職の役割	1
3.	人間の欲求について1	人間の欲求の基本的理解	1
4.	人間の欲求について2	人間の欲求の基本的理解と尊厳	1
5.	自己実現1	自立への意欲と自己概念の関係	1
6.	自己実現2	自己実現と尊厳	1
7.	脳のしくみ	脳の構造について①	1
8.	脳のしくみ2	脳の構造について②	1
9.	認知のしくみ	感覚と知覚	1
10.	学習・記憶・思考のしくみ1	学習理論と行動理論	1
11.	学習・記憶・思考のしくみ2	記憶について	1
12.	感情のしくみと意欲、動機づけ		1
13.	適応のしくみ1	パーソナリティ、適応と不適応	1
14.	適応のしくみ2	ストレス関連の障害について	1
15.	社会性を引き出すところ		1
16.	「こころのしくみ」のまとめ		1
17.	からだのしくみの理解		1
18.	人体の構造と働きの基礎知識・解剖学的用語		1

19.	からだの成り立ち	1
20.	細胞と組織	1
21.	11種の器官系・ホメオスタシス	1
22.	自律神経系の働き	1
23.	呼吸のしくみ	1
24.	循環のしくみ	1
25.	生命徴候	1
26.	バイタルサインの計測	1
27.	様々なストレスに対応するしくみ	1
28.	外界からの有害物質の侵入を避けるしくみ	1
29.	再生と修復のしくみ	1
30.	ヒトの一生の理解（形態と機能の変化）	1
31.	ヒトの一生の理解（こころとからだの変化）	1
32.	「からだのしくみ」のまとめ	1
33.	移動に関連したこころとからだのしくみ	1
34.	移動に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
35.	移動に関連する変化の気づき・観察ポイントと対応	1
36.	移動に関連する事例から学ぶ利用者の変化と観察ポイント	1
37.	移動に関連する事例から学ぶ対象者への対応（方法）	1
38.	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1
39.	身じたくに関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
40.	身じたくに関連する変化の気づき・観察ポイントと対応	1
41.	身じたくに関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント	1
42.	食事に関連したこころとからだのしくみ	1
43.	食事に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
44.	食事に関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント	1
45.	食事に関連する事例から学ぶ対象者への対応（方法）	1
46.	「移動・身じたく・食事に関する」こころとからだのしくみのまとめ	1
47.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1
48.	入浴・清潔保持に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
49.	入浴・清潔保持に関連する事例から学ぶ利用者への対応（方法）	1
50.	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1
51.	排泄に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
52.	排泄に関する事例から学ぶ利用者の変化と観察ポイント	1
53.	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1
54.	睡眠に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響	1
55.	睡眠に関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント	1
56.	死にゆく人のこころとからだのしくみ	1
57.	死にゆく人の心身の変化と変化の気づき・観察のポイント	1
58.	死にゆく人の心身の変化と変化の気づき・対応	1
59.	「こころとからだのしくみ」の振り返り・まとめ①	1
60.	「こころとからだのしくみ」の振り返り・まとめ②	1
合計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症の理解 I (介護職員資格講座)	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科1年	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患および認知症の方に対し、どのように接していくかを目指す。 ・ 認知症ケアの歴史、現状と課題を具体的に述べる事ができる。 	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患及び認知症を持つことの意味を理解し、認知症の原因・病態・状態・症状等を学ぶ。 ・ 自らの精神保健を振り返り、認知症の方の家族・介護者の健康に配慮ができる。 	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解／中央法規出版</p> <p>【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社</p>	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする	
授業計画 (内容)		コマ数
1.	科目オリエンテーション ・ 認知症のある高齢者の現状と今後	1
2.	認知症の人の医学・行動・心理的理解 1 認知症の定義・認知症の人の行動や心理、脳の仕組みなどについて	1
3.	認知症の人の医学・行動・心理的理解 2 認知症の原因疾患などについて	1
4.	認知症の人の医学・行動・心理的理解 3	1
5.	認知症の人の医学・行動・心理的理解 4 認知症の原因疾患などについて	1
6.	認知症の人の医学・行動・心理的理解 5 認知症の予防、認知症の人の心理的理解について	1
7.	認知症の人の生活理解 1 認知機能の変化と生活環境との関係について	1
8.	認知症の人の生活理解 2 認知症の人の生活の理解と支援などについて	1
9.	認知症の人への関わりの基本などについて	1
10.	地域のサポート体制、チームアプローチなどについて	1
11.	家族としての認知症への関わりや家族ケアについて	1
12.	認知症対策や介護保険制度などについて	1
13.	認知症サポーター養成講座	1
14.	「認知症の理解」の総括 1	1
15.	「認知症の理解」の総括 2	1
計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症の理解Ⅱ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制を学習する。 ・認知症の人やその家族の日常生活を支えるための基礎能力を習得する。 	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活を環境面から捉え、家族や社会との関わりによる認知症への影響を理解できる。 ・認知症の人の家族が抱える大変さと求められる支援について理解する。 	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解／中央法規出版</p> <p>【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社</p>	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする	
授業計画（内容）		コマ数
1.	科目オリエンテーション パーソン・センタード・ケアについて	1
2.	認知症の人の理解とアセスメント1 認知症の人を理解するために	1
3.	認知症の人の理解とアセスメント2 健康状態などについて	1
4.	認知症の人とのコミュニケーション	1
5.	認知症の人へのケア1 食事・排泄・入浴など ADL 障害のケア	1
6.	認知症の人へのケア2 BPSD のケア	1
7.	認知症の人へのアプローチ1 ユマニチュード・バリデーション・その他	1
8.	認知症の人へのアプローチ2 バリデーション・その他	1
9.	認知症の人の終末期医療とその支援	1
10.	認知症の人のための環境づくり	1
11.	家族への支援	1
12.	介護する者への支援	1
13.	認知症の人への地域支援	1
14.	認知症の理解を視聴覚教材を用いて学ぶ（予定）	1
15.	「認知症の理解」の総括	1
		1
		1
	計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	発達と老化の理解 I (介護職員資格講座)	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科 1年・2年	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ	・ 1 / 24 単位
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要		
授業の到達目標	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基本的な知識を習得する。	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	<p>【講義時使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座テキスト 第12巻「発達と老化の理解」</p> <p>【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社</p>	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。	
	授業計画 (内容)	コマ数
	1. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の考え方	1
	2. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の原則・法則	1
	3. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達に影響する要因	1
	4. 発達理論	1
	5. 発達段階と発達課題	1
	6. 身体的機能と成長と発達	1
	7. 心理的機能の発達	1
	8. 社会的機能の発達	1
	9. 老年期の特徴と発達課題	1
	10. 老年期にともなう身体的な変化と生活への影響	1
	11. 老年期にともなう心理的な変化と生活への影響	1
	12. 老年期にともなう社会的な変化と生活への影響	1
	13. 高齢者の症状・疾患の特徴	1
	14. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	1
	15. 保険医療職との連携	1
	合計	15
	授業単位数	1

科目名	障害の理解Ⅰ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ ・ 1 / 24 単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	障害者基本法などに定められている障害を中心にその理解と対応を学ぶ。	
授業の到達目標	障害の種類・原因・特性を理解する。障害を持ったヒトのこころを理解し、障害をどのよう にカバーしていくかを考える。	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解／中央法規出版 【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。	
授業計画（内容）		コマ数
1.	科目オリエンテーション 障害の概念を学ぶ。	1
2.	障害者の基本理念を理解する。ICF の理解	1
3.	障害者福祉に関する制度を理解する 障害者福祉制度と介護保険制度を理解する。	1
4.	運動機能障害を理解する。 運動機能障害とその原因疾患について学ぶ。	1
5.	視覚障害を理解する。	1
6.	聴覚・言語障害を理解する。 視覚障害、言語障害、聴覚障害の不自由を学び、対応や支援の留意点を理解する。	1
7.	内部障害（心機能障害・腎機能障害）を理解する。 臓器別の疾患の原因疾患と症状を理解する。	1
8.	重症心身障害を理解する。 重症心身障害の考え方、生活上の困難、現在の支援制度を理解し、必要な支援について学ぶ。	1
9.	知的障害を理解する。 知的障害の種類とその原因について学び、どのような支援が必要かを理解する。	1
10.	精神障害を理解する。精神障害の種類と特異性について理解し、どのような支援が必要かを学ぶ。	1
11.	高次脳機能障害を理解する。高次脳機能障害について理解し、どのような支援が必要かを学ぶ。	1
12.	発達障害を理解する。 発達障害がどのようなものか、原因疾患と症状を理解する。また、どのような支援が必要かを学ぶ。	1
13.	難病、特に指定難病の現状を理解し、難病患者に必要な支援について学ぶ。	1
14.	障害のある人への支援・地域のサポート体制を理解する。	1
15.	障害のある方の家族への支援を学ぶ。家族を支援する社会資源を理解する。	1
		計 15
		授業単位数 1

授 業 概 要

科目名	医療的ケアⅠ（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ ・ 1 / 24 単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 []	
授業の概要	<p>医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。</p> <p>喀痰吸引・経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。</p>	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職が実施する医療的ケアの法的根拠・目的・範囲を述べるができる。 2. 医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚して実践にあたる重要性を理解できる。 3. 呼吸器系のしくみとはたらき、以上の兆候について説明できる。 4. 喀痰吸引・経管栄養を必要とする対象者の特徴を述べるができる。 5. 喀痰吸引・経管栄養を必要とする対象者・家族の気持ちを考えることができる。 6. 喀痰吸引・経管栄養による危険、感染について説明できる。 	
成績評価方法と基準	<p>試験及びレポート80%、学習への取り組み20%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価を行う。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。 （「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できる事とし、合格不合格にて評価する。）</p>	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	<p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア／中央法規出版</p> <p>【参考文献】 随時、紹介する。</p>	
授業上の注意点	授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 医療的ケアとは		1
2. 医行為について		1
3. 清潔保持と感染予防		1
4. 療養環境の清潔、消毒法		1
5. 健康状態の把握		1
6. 喀痰吸引とは		1
7. 人工呼吸器と喀痰吸引		1
8. 子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応		1
9. 吸引の技術と留意点		1
10. 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認と急変時の対応		1
11. 経管栄養とは		1
12. 注入する栄養剤に関する知識		1

13. 経管栄養実施上の留意点	1
14. 子どもの経管栄養について、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応	1
15. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認と急変時の対応	1
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	医療的ケアⅡ(演習)(介護職員資格講座)	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15 / 360 コマ ・ 1 / 24 単位	
授業方法	講義 [] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアを実施する際の手順・留意点を述べることができる。 2. 安全・適切に喀痰吸引を実施することができる。 3. 安全・適切に経管栄養を実施することができる。 	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価を行う。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。 (「喀痰吸引等研修実施要綱」(平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知)に定められた実施手順通りに実施できる事とし、合格不合格にて評価する。)	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア / 中央法規出版	
授業上の注意点		
	授業計画(内容)	コマ数
	3. 医行為と医療的ケア	1
	4. 安全な療養生活	1
	5. 清潔保持と感染予防	1
	6. 健康状態の把握	1
	7. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	1
	8. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	1
	9. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	1
	8. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	1
	9. 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引の実施方法	1
	10. 気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施方法	1
	11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実施方法	1
	12. 経鼻経管による経管栄養の実施方法	1
	13. 経鼻経管による経管栄養の実施方法	1
	14. 救急蘇生法	1
	15. AED使用の手順	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	実務者研修総合演習（介護職員資格講座）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	利用者の状態・状況に合わせた的確な介護が実践できる人材を育成することを目指したカリキュラムに沿って学んだ専門的な医学の知識や介護実践に関連する制度の知識等、基準に達しているか評価する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修必須課題・問題について標準的な評価に達する	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	「最新介護福祉士養成講座」全巻 中央法規出版	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 科目「人間の尊厳と自立」課題		2コマ
2. 科目「人間関係とコミュニケーション」		2コマ
3. 科目「社会の理解」		4コマ
4. 科目「介護の基本」		2コマ
5. 科目「コミュニケーション技術」		2コマ
6. 科目「生活支援技術」		2コマ
7. 科目「介護過程の展開」		2コマ
8. 科目「こころとからだのしくみ」		3コマ
9. 科目「発達と老化のしくみ」		2コマ
10. 科目「認知症の理解」		2コマ
11. 科目「障害の理解」		2コマ
12. 科目「医療的ケア」		3コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護総合演習・介護実習Ⅰ	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	40 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	1. 会議実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 2. 地域における様々な場において、対象者の生活理解する学習とする。	
授業の到達目標	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
1. 介護総合演習の目的		1コマ
1. 介護実習の意義と目的		1コマ
3. 介護実習の種類		1コマ
4. 介護実習前の学習の意義と目的		1コマ
5. 介護実習中の態度		1コマ
6. 実習先の特徴		1コマ
7. 実習先での学び、実習記録の書き方		1コマ
8. 実習① デイサービス		4コマ
9. 実習② 訪問介護		4コマ
10. 実習③ 障害者支援施設		4コマ
11. 実習④ 入所施設		4コマ
12. まとめ		1コマ

合計 20コマ
授業単位数 1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康トレーニング	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護・介護予防としてデイケア、デイサービス、介護老人保健施設、フィットネスジムなどでのトレーニング方法他、とその理論を理解できる。	
授業の到達目標	1. エクササイズを通して高齢者の健康保持・増進・体力の向上について理解する。 2. 運動・スポーツを通して集団で運動することの楽しさと意義を体験する。	
成績評価方法と基準	出席15%、安全に演習への指示ができる80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	宮下智「レッドコード・グループエクササイズ」三輪書店 大田 仁「介護予防に役立つ リハビリ体操」	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 高齢期の現状（身体的、精神的、社会的特徴）とトレーニングの留意・注意点	1コマ
	2. 健康増進に関する多様な方法と指導計画	1コマ
	3. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(座位でのグループエクササイズ)	1コマ
	4. 介護場面で実際に行われているエクササイズ(立位でのグループエクササイズ)	1コマ
	5. 体操の進め方	1コマ
	6. 上肢の体操	1コマ
	7. 床上運動を楽にするための体操	1コマ
	8. 寝返りを楽にするための体操	1コマ
	9. 起き上がりを楽にするための体操	1コマ
	10. 立ち上がりを楽にするための体操	1コマ
	11. 腰痛予防体操	1コマ
	12. 転倒予防体操	1コマ
	13. 膝痛予防体操	1コマ
	14. 失禁予防体操	1コマ
	15. 誤嚥予防体操	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	レクリエーション指導論	
実務経験	秋田県レクリエーション協会講師	
対象学生	総合福祉学科・心理福祉学科・社会福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	レクリエーション理論や支援法を、さまざまなレクリエーション活動を通して学ぶ。最終的にはプログラムを立案し、実践（検定）・評価を行う。	
授業の到達目標	支援者に必要な知識や演出方法を理解し、レクリエーション素材の有効的な活用方法やプログラムの組立て方、実技実践方法を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	介護「レクリエーション・サポーター研修」 利用者の心に寄り添って楽しいをつくりレクリエーション支援	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. レク概論～楽しさと心の元アイスブレイキング理論編気づくりの理論 I	1	
2. レク理論Ⅲ～アイスブレイキング～	1	
3. レク理論Ⅱ～ホスピタリティ編～	1	
4. レク活動習得法Ⅱ ～ゲーム・ダンス編～	1	
5. レク活動支援Ⅲ～高齢者編～	1	
6. レク支援法Ⅷ ～ネイチャーゲーム編～	1	
7. レク活動習得法Ⅲ ～太極拳編～	1	
8. レク活動習得法Ⅳ～チャレンジ・ザ・ゲーム編～	1	
9. レク活動習得法Ⅵ～高齢者編～	1	
10. モデルプログラム体験Ⅰ～キャンプ編～	1	
11. レク活動実践～高齢者編～	1	
12. モデルプログラム体験Ⅰ～クラフト編～	1	
13. モデルプログラム体験Ⅱ～クラフト編～	1	
14. レク活動習得法Ⅴ～レクダンス～	1	
15. レク支援実践法Ⅵ～グループ指導演習③ 閉校式	1	
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	栄養学	
担当教員の実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	生活構造の変化に応じて食生活も多様となるが、求められる機能と現状を理解する。	
授業の到達目標	健康な食生活に必要な知識技術の理解を進める。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	前回のプリント課題の復習	
使用教科書・教材・参考書	吉澤みな子 他著「大学で学ぶ食生活と健康の基本」(株)化学同人出版	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画(内容)		コマ数
1. 健康寿命について	秋田県民の食生活指針	1コマ
2. 個々人の食事について	体格指数の計算 社会の変動と食生活 国内自給率	1コマ
3. 栄養、栄養素について	食事摂取基準について	1コマ
4. 食欲のしくみ		1コマ
5. 消化のしくみ	吸収のしくみ 排泄のしくみ	1コマ
6. バランス献立の基本型	3回食が体に良いわけ 調理について	1コマ
7. ライフサイクルと栄養	①妊娠中の栄養と食事・乳幼児の栄養と食事	1コマ
8. "	②小学生の栄養と食事・中高校生の栄養と食事	1コマ
9. "	③成人の栄養と食事・高齢者の栄養と食事	1コマ
10. 食物アレルギーについて		1コマ
11. 食品表示、食中毒、食の安全について		
12. 症状別栄養	① 肥満、糖尿病、がん、動脈硬化 他	1コマ
13. 症状別栄養	② 脂質異常症、高血圧、脳卒中、心疾患 他	1コマ
14. 症状別栄養	③ 肝機能低下、消化器系・腎機能低下 他	1コマ
15. 災害時の食対応について	まとめ	1コマ
合計		15コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	健康予防管理専門士資格講座	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学ぶ。	
授業の到達目標	健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける	
成績評価方法と基準	試験及びレポート80%、学習への取り組み20%	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
健康予防管理・指導の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 健康の定義、維持・増進・予防 ② メタボリックシンドロームの定義・診断基準・対策 ③ 生活習慣病と生活習慣・食事 ④ 疾病構造の変化 	2
健康づくりの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養と栄養素 ② 喫煙と健康 ③ アルコールと健康 ④ 生活習慣病と運動 	2
健康づくりの実践	<ul style="list-style-type: none"> ① 食事バランスガイド ② 日本人の食事摂取基準2015 ③ 食品標準成分表 ④ 糖尿病食事療法のための食品交換表 ⑤ 嚥下障害の基礎知識と食事 ⑥ 高齢者の身体的特徴と介護予防 ⑦ たんぱく質・エネルギー低栄養状態の基礎知識および栄養と予防 ⑧ 保健機能食品 ⑨ サプリメントの基礎知識 ⑩ 薬剤と食品成分との相互関係 	4
運動による健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本人の健康と国の健康増進対策 ② 健康づくりの運動とは 	2
生活習慣病と予防の知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 肥満症の基礎知識および治療と予防 ② 死亡肝の基礎知識および治療と予防 	5

③ 高血圧症	
④ 脂質異常症	
⑤ 糖尿病	
⑥ 慢性腎臓病（CKD）	
⑦ 動脈硬化	
⑧ がん（悪性新生物）	
⑨ 骨粗鬆症	
⑩ 高尿酸血症・痛風	
⑪ 生活習慣病	
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	太鼓	
担当教員の実務経験	山鳩太鼓奏者	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	・ 1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	和太鼓に触れ身体表現することで豊かな感性を涵養する。	
授業の到達目標	協働して表現することで、チームで活動・表現する喜びを体験できる。	
成績評価方法と基準	出席状況 80%、授業態度20%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち、時間を見つけて、自ら復習をする。	
使用教科書・教材・参考書	資料は、毎回担当教員が準備する。	
授業上の注意点	活動しやすい服装、白足袋を各々準備すること	
授業計画（内容）		コマ数
1. 太鼓の基礎知識		1コマ
2. 楽譜の読み方、基本の太鼓のたたき方		3コマ
3. 楽曲に合わせたパート練習①		3コマ
4. 楽曲に合わせたパート練習②		3コマ
5. 楽曲に合わせた通し練習③		4コマ
6. 楽曲発表		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	就職対策講座	
対象学生	総合福祉学科1年生	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職に向けた自己理解、職業指導、事業所研究、就職面接対策等を通して、福祉関係事業所へのマッチング及び就職対策を行う。	
授業の到達目標	自己覚知を基に、自ら就職活動を主体的におこなえる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート提出80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	各就職指導対策の実施ができる準備を行う（就活用用品等を揃える）	
使用教科書・教材・参考書	関 明浩「表現技法 ビジネスマナーと文章技法」電子開発学園出版局	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1.就職ガイダンス		1 コマ
2.人間コミュニケーションの基本を理解しよう		2 コマ
3.ビジネスマナーの基本を理解しよう		5 コマ
4.話し方の基本（話し方のマナー）を理解しよう		4 コマ
5.文章技法の基礎（文章のマナー）を理解しよう		3 コマ
6.実際の文書の基礎をマスターしよう		4 コマ
7.福祉職者として必要となる自己理解		2 コマ
8.福祉専門職者の役割及び連携		2 コマ
9.身近な福祉関係事業所・施設の把握		2 コマ
10.履歴書、お礼状の書き方		2 コマ
11.面接対策応答検討		1 コマ
12.就職面接会参加		1 コマ
13.まとめ		1 コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ITの職業と情報倫理	
対象学生	心理福祉学科・社会福祉学科・総合福祉学科 1 年生	
担当教員の実務経験		
授業時間数・単位数	10 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	専門学校入学直後の導入科目として、これからの学習への動機付けと、安全のための情報モラル教育を行う。	
授業の到達目標	情報化社会において、被害者や加害者にならないための知識を学び、情報モラルを身につけ、情報機器を有効に活用できるようになること。	
成績評価方法と基準	出席状況及び科目試験の成績により評価する。A:80～ B:60～79 C:40～59 D:40未満	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	ITの職業と情報倫理（SCC：学習ノート）	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	(1) ITの発展と社会	1
	(2) インターネットの基礎知識	1
	(3) IoTとAI	1
	(4) ITの職業と資格	1
	(5) IT社会のトラブル	1
	ITを使った詐欺、情報漏洩、依存症	
	(6) 情報セキュリティ	1
	個人情報の種類と法律、情報を守る技術	
	(7) コンピュータウイルス	1
	マルウェアの種類と被害、対策方法	
	(8) 情報の捉え方	1
	フェイクニュースや情報操作など系のある発信の見分け方	
	(9) 情報発信のルール	1
	悪ふざけの投稿や誹謗中傷の代償、名誉棄損などの法律	
	(10) 著作権	1
	知的財産権の体系、守るべきルール	
	(1) ITの発展と社会	1
	(2) インターネットの基礎知識	1
	合計	10
	授業単位数	1